



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がること、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害者」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年4月現在、川崎3、横浜2、県域11 計16名で活動中！

手話サークル「かもめ」特別講演会

講師：田中 清 氏 (NHK手話ニュースキャスター)

日時：5月24日(木) 午後19時～20時30分

場所：横浜市南センター

(横浜市南区・最寄り駅市営地下鉄蒔田駅)

参加費：かもめ会員及び賛助会員及び

南区聴覚障害者協会会員以外は300円

テーマ：「日本手話の魅力」(仮題)

問合せ：手話サークルかもめ

kamome_shuwa@leo.livedoor.com

*****申込は不要です*****

～ 定例会 ～

* 4/22 (日) 定例会を行いました *

6/30 開催の「サークル研究班」主催学習会・9月の神通研集会について話し合いました。

テーマは「災害」。災害については、頭ではわかっていてもなかなか現実として捉えられないことが、能登半島地震後のアンケートで浮き彫りになりました(阪神淡路大震災被災者の90%が地震対策を行っているのに対し、能登半島の避難住民の90%が対策を取っていなかったとのこと)。各地のサークルでも少しずつ取り組みが行われているようですが、一般社会に聴こえないことに対する発想がまだまだ足りないようです。サークルから地域に発信していきましょう。

【次回定例会】5月27(日) 13:00～15:00
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

～ '06年神通研集会 第1分科会報告～

～ サークルってどんなところ? ～

- ・ろう者と健聴、また会員同士が共に歩むところ
- ・教わるだけではなく共に学ぶところ
- ・交流をするために手話を学ぶところ。ろう者との交流を通し、手話技術以外に学ぶことがたくさんある
- ・地域の情報の受発信が出来るところ
- ・社会に向け聴こえない障害を伝えていくところ
- ・総合学習等の手話指導を通し、聴こえないことの理解も広めていく地域社会との接点
- ・年齢・仕事等いろいろな人たちが集うところ

サークルが地域の手話に関わる人たちにとって、
“四方山話に花が咲く” 場所になるといいですね

～サークル研究班メンバーのささやき～

サークルって何をやる場...? 運動? 学習? 交流?...? 状況によって違うと思いますが、私は、運動、交流、学習の優先順位です。手話は言語、言葉なので、いつか出来る気長に考えています。自分の目のように細く・長く、続けたいと思います。分からないことが多いので、これからも(は)? くれぐれも優しく教えて下さい(笑)。手話が出来ない私のような神通研会員もいます。ろう者との交流もあり、和も広がり、様々な情報も得られます。是非是非、尻込みせずに安心して一緒に活動しましょう。 “大和の細目君” より